

# 花水木

Kuwahara Shutaro

桑原 周太郎 (69期)



最低限の荷物だけを背負って一か月歩く。  
ホタテ貝は旅のシンボル。

## カミーノ

一か月間、自由に過ごせるとしたら何をしますか。転職の際や留学前後にそういう機会があるかもしれません。私がお勧めしたいのは北スペインの世界遺産、サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路（通称「カミーノ」）。本稿では、私がかつてカミーノを歩いたときのお話をします。

カミーノは、北スペインを横断する約900キロの巡礼路です。キリスト教の聖地であるスペイン北西部のサンティアゴ・デ・コンポステーラという町が目的地で、巡礼者が聖地を目指して歩く道として千年以上の歴史があります。今では、私のように「面白そうだから」と宗教以外の理由で歩く人もたくさんいます。

主な出発地はフランスのサン・ジャン・ピエ・ド・ポル。スペインとの国境沿いにある小さな村で、そこを出発し、初日にピレネー山脈を越えてスペインに入り、その後は毎日ひたすら西へ歩きます。歩く距離は一日30キロ前後ですので、踏破に要するのは約一か月。ホタテ貝をかたどった黄色のマークが道標です。

夏だったからかもしれませんが、

巡礼者の一日の始まりはとても早いです。夜明け前からヘッドライトをつけて歩き始め、休憩を挟みつつ、暑くなりすぎる前の昼過ぎには歩き終えます。

毎日ただ「歩く」だけのカミーノですが、その魅力は語り尽くせません。まずは日常では見られない幻想的な景色。丘を登り切ると突然眼下に一面のヒマワリ畑が広がったり、何もない草原の真ん中を道が真っすぐと伸びて地平線に消えていったり、あるいは、遠くもやの中にポツリと巨大な十字架が立っていて、その根元には過去の巡礼者たちが残っていた無数の小石が積まれていたり。こうした息をのむような景色に連日出くわします。

また、「巡礼路」という響きは俗世から隔絶された道を連想させますが、実は毎日小さな村をいくつも通過します。そこで遊んでいる地元の子供たちや庭いじり中のおじさんに「¡Buen Camino!」（良い旅を!）と声をかけられ、「どこから来た?」などと立ち話が始まったりしたのも良い思い出です。現地の人たちは巡礼者にとっても優しいのです。

アルベルゲという巡礼者専用の宿

での交流も旅の醍醐味です。歩き終えた後は皆やることがないので、一緒にビールを飲んだり、歌を歌ったり（楽器を担いで巡礼している人は意外といます）、ときには小川で泳いだりと、思い思いにのんびりと過ごします。夜は共用キッチンで一緒に夕食を作ることも多いです。毎日同じ方向に同じようなペースで歩くので、ある日出会った人と数日後、あるいは数週間後に再会するのも珍しくなく、同時期の巡礼者の間では不思議な連帯感が生まれます。

そして何よりも、ゴールに辿り着いたときの達成感は格別です。実はカミーノには、聖地に到着した後、フィニステレー（ラテン語で「世界の果て」）という大西洋に面した村まで三日かけて歩く「延長戦」があります。フランスの小さな村から出発し、一か月ひたすら歩き続け、ついに海（世界の果て）を目にしたときの感動は忘れられません。

機会があればぜひ挑戦してみたいかがでしょうか。きっと一生ものの経験になると思いますよ。

